

## コンニャク(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	葉枯病	白絹病	根腐病	腐敗病	乾腐病	アブラムシ類	ネコブセンチュウ
I Cボルドー66DFL	M1		-	-	◎			◎			
Zボルドー水	M1		-	-	◎			◎			
クプロシールドFL	M1		-	-	◎			◎			
コサイド3000DF	M1		-	-	◎						
ジーファイン水	NC・M1		1	-	◎						
スターナ水	31		*a	1				◎			
			14	5			◎				
トップジンM粉DL ㊦	1		*a	1					◎		
ベンレート水㊦	1		*a	1					◎		
バシタック粉	7		*j	4		◎					
ランマンFL	21		14	3			◎				
リゾレックス水	14		30	3		◎					
トリフミン水	3		*a	1					◎		
キノンドー水40	M1		30	8	◎			◎			
ヨネボン乳	M1		30	7	◎			◎			
ユニフォーム粒	4・11		*g	1			◎				
			*e			◎					
			30	1		◎					
アタッキン水㊦	1・25		*a	1				◎	◎		
			*i				◎	◎			
ドーマイシン水	25・M1		30	6	◎			◎			
アグリマイシン-100水	25・41		*a	-				◎			
			30	6	◎		◎				
ナレート水	31・M1		21	5				◎			
スミチオン乳	1B		14	3						◎	
ネマトリンエース粒	1B		*c	1							◎
アクタラ粒5	4A		*L	1						◎	
アドマイヤー顆水	4A	劇	21	2						◎	
アドマイヤー1粒	4A		*d	2						◎	
			*h	1						◎	
モスピラン粒	4A		*k	1						ワ	
コルト顆水	9B		1	3						◎	
ウララDF	29		7	2						◎	

㊦:チオファネートメチル含有剤 ㊦:ベニル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での  
 ㊦は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く、  
 詳細はP.856参照)。\*a:植付前 \*c:植付前 \*d:生育期(但し収穫21日前まで)

\*e:培土時

\*g:植付時 \*h:培土時(基根伸長期) \*i:貯蔵前又は植付前

\*j:植付時および生育期(但し収穫30日前まで) \*k:培土時(出芽期)

\*L:培土時(但し出芽前まで)

ワ:ワタアブラムシ

## コンニャク（野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根腐病	植付時	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無病種いもを植付ける。</li> <li>2. 圃場の排水を良好にする。</li> <li>3. 土壌消毒する。（土壌消毒の項参照）</li> <li>4. 次の薬剤を植溝土壌混和する。 ユニフォーム粒剤 9 kg/10a</li> </ol>	
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の薬剤を株元灌注する。 ランマンフロアブル 500～1000倍液 3L/m<sup>2</sup></li> </ul>	
腐敗病・ 葉枯病	植付前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無病種いもを植え付ける。</li> </ul>	高温多湿時において茎葉に傷害を受けた場合に多発となるので、台風通過後は薬剤を散布する。 ストマイ剤は高温多照、乾燥時に散布すると葉害がしやすい。
	6月下旬～9月上旬	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病株はすみやかに除去する。</li> <li>2. 発生の初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アグリマイシン-100(水) 1000倍 キノンドー水和剤40 500～600倍 ドーマイシン水和剤 500倍 Zボルドー(水) 500～800倍</li> </ol>	
乾腐病	植付前	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無病種いもを植付ける。</li> <li>2. 次の薬剤のいずれかを処理する。 トップジンM粉剤DL⑤ 種いも重量の2～3%粉衣トリフミン水和剤 50倍 種いもの芽基部に散布 ベンレート水和剤⑥ 50～100倍 種いもの芽基部に散布</li> </ol>	未熟有機物の多い圃場やアルカリ土壌で発生しやすい。 ⑤:チオファネートメチル含有剤 ⑥:ベンジル含有剤 ⑤を使用した場合には同じ作での⑥は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理及び塗布処理を除く、詳細はp. 856参照）。
白絹病	植付時	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発病畑は消毒する（土壌消毒の項参照）。</li> <li>2. 無病種いもを植付ける。</li> </ol>	7～8月の盛夏に発生が多い。
	培土時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の薬剤を株元散布する。 ユニフォーム粒剤 9 kg/10a</li> </ul>	
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の薬剤を株元灌注する。 リゾレックス水和剤 1000倍液 3L/m<sup>2</sup></li> </ul>	
アブラムシ類	培土時 生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 アドマイヤー1粒剤 培土時(株元土壌混和) 3～6kg/10a 生育期(茎葉散布) 6 kg/10a スミチオン乳剤 1000倍</li> </ul>	

## コンニャク（野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ネコブセンチュウ	収穫時	・種いもは、センチュウの寄生していないものを選ぶ。	
	定植前	1. 土壌消毒をする（土壌消毒の項参照）。 2. 次の薬剤を全面に施用して土壌混和する。 ネマトリンエース粒剤 25kg/10a	